

令和 5 年 9 月 28 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2016～2020

課題番号：16H01909

研究課題名(和文) 記憶論的転回以後の集合的記憶論の学際的再検討

研究課題名(英文) Interdisciplinary Reconsideration of Collective Memories after the Mnemological Turn

研究代表者

岩崎 稔 (Iwasaki, Minoru)

東京外国語大学・その他部局等・名誉教授

研究者番号：10201948

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 25,900,000円

研究成果の概要(和文)：集合的記憶という視点が受容されたことで「記憶論的転回以後」という位相において生まれた問題やコンフリクトを多面的に再検討した。これにより、それまで等閑視されていた数多くの個別事例を可視化した。そこには震災の記憶や、人類学者によるいわゆる人骨問題も含まれる。また、歴史をめぐる情動的な次元を視野に入れることで、学術的研究を超えた社会現象や、サブカルチャーも含む歴史表現の特徴、集合的記憶をめぐる反知性主義等を解明した。さらに、犠牲者意識ナショナリズムとして噴出する異なった犠牲者意識間の相克を検討し、その隘路の克服のために multidirectional memory というアプローチにたどり着いた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本事業は、とくにポスト冷戦期の「記憶」に関するさまざまな論争について、切り開かれた認識の地平と残された課題を総括する役割を担った。諸論争を回顧した場合、実証的な蓄積が顕著に進んだ例が数多くある一方で、学術的な認識とは相反する内容が情動的に拡散するような事態も少なからず生まれた。そうした複雑な現象について、たんに所与の言説を批判的に検討するだけではなく、過去の批判的語り方それ自体や、「犠牲者意識ナショナリズム」などの現象にも学際的な検討を加えた。これによって本研究は、記憶論争が作り出してきた蓄積を、学術的な活動に限定されない文化表現まで視野に入れつつ、確実に次の世代に手渡すことに貢献した。

研究成果の概要(英文)：Interdisciplinarily have we been reexamining the new matters and conflicts that has arisen after "mnemological turn": (1) A lot of individual cases that had been ignored until then were thematized, like memories of the earthquake disaster and the so-called "human bone troubles by anthropologists." And (2) by having made an in-depth analysis into the emotional dimension of history, we clarified social phenomena outside of academic research and considered the characteristics of various historical expressions including subcultures which are expressing a swing toward an anti-intellectualism. Furthermore, (3) we have examined conflicts between different victim consciousnesses that often erupt as so called victimhood nationalism, and in order to overcome such a bottleneck we have, even still tentatively, arrived at the new approach of " multidirectional memory."

研究分野：政治学

キーワード：集合的記憶 想起の文化 多方向的想起 忘却 記憶の抗争 歴史修正主義 犠牲者意識ナショナリズム
△ 記憶術

1. 研究開始当初の背景

記憶をめぐる議論自体は、国際的には1986年の「ドイツ歴史家論争」を嚆矢とし、また日本語圏でもそれにすこし遅れながら概ね1990年代初めあたりから始まっていた。それは、人文学や社会科学の議論のなかで、「記憶」「想起」「忘却」という術語が過去をめぐる語りに顕著に用いられるようになったことに端的に示されている。そうした議論の多くは、ときには特異性をもった記憶の可視化や回復として論じられるとともに、集合的な動態を持つ問題として概念化された。

こうした集合的記憶研究のそれぞれは、多くの類似点や相互触発関係があったにも関わらず、その論理構造や問題意識においては多元性や異質性を持ち、別々の文脈のなかで混乱すら伴って展開されてきたが、その多義性や混乱に本事業の初発の問題意識があった。たとえば、抑圧された被害者の記憶については、過去の記憶の回復と再生をモデルとした記憶論(再生的記憶モデル)がおのずから論争や議論の形式を規定する。しかし、それに対して、国民的記憶の生成メカニズムに照準を合わせた「記憶の場」論のような作業の場合には、記憶が産出されると理解されることが一般的であり、規定的でもあった(産出的記憶モデル)。しかし、それらの異なった考察の当事者のあいだには、差異の自覚も適切な協働も欠落していた。このようなズレを一例として、集合的記憶論は、多様なトピックに広がりながら、概念装置や発想の違いに導かれて、意識しない混乱や齟齬を孕んでいた。

その行き違いは、戦争犯罪やホロコーストの事例だけでなく、トラウマや精神分析による知見の刷新や実践的適用でも起こる。フェミニズムが、近代家族の規範性との対決のなかで、家族の神話のなかに閉じ込められていた性的虐待の記憶を問題にしたときには、告発された加害者だけでなく、伝統的家族観を保守するひとびとからも対抗的な攻撃やバックラッシュの言説が奔出した。アメリカで「虚偽の記憶論争」が起こったように、ナショナルメモリー以外の次元でも、記憶の概念的理解をめぐるきわめて険しい対立が存在する。そこでは、虐待の記憶を「取り戻した」と認識する立場は、「記憶」を真正性の回復の物語として捉えるのに対して、それを攻撃する側は、「記憶」が外的操作で挿入可能なものだと説明する実験心理学の記憶概念を動員した。

また本研究は、ナショナルメモリーに代表される国家や地域の語り、一定のアイデンティティ集団の記憶、そしてそれをとりまく感情の動態を一方に見据えながら、それらが歴史学やそれに準じる歴史学研究の実証的な成果と激しく乖離したり、背反的なものとなったりする事例をもメタレベルから解明することが必要であると考えた。その反省的な分析の下絵として、集合的記憶論の混乱には、脱冷戦期に特異な政治状況や、それに対応して進む新自由主義的再編過程が連動しているという認識があった。

2. 研究の目的

記憶論の混乱が一因ともなって、論争の成果や効果が、歴史認識の深化に結びついていないだけでなく、かえって論争関係が特殊化してこわばったり、たんなるレトリックの応酬にとどまったりすることもある。それは多くの弊害を生み出し、集合的記憶そのものの知的劣化すら招いた。あらためてそこに出現している学問的、知的混乱の意味を整理し、集合的記憶と忘却の論争史を、その多軌道的、多次元的であった経緯を踏まえつつ整理し、具体的な事例に即しつつ相互関係を解明することが、本事業の分担者が設定した基本的な研究目的であった。それは、いかに過去三十年間の記憶論争の学際的で多元的な成果と課題を再整理し、位置づけ直し、そのことを通じて、集合的記憶に関する論争的蓄積を命題的な形で次世代に継承できるのかということに取り組みことでもあった。もとより、集合的記憶に関する議論は、それ自体が政治的な文脈を持っているため、学術的な整理で対立局面が解消するなどということは期待できなかった。しかし、不必要な概念的混乱を回避し、不毛な対立となっている問題の一部を少なくとも知的対話の中に引き戻し、さらに記憶をめぐる論争史の蓄積を雲霧消させないで、次の世代に引き継ぐことは可能である。

要約すれば、本共同研究は、いわゆる「記憶論的転回」以後に現れてきたさまざまな集合的記憶に関する争点、あらたな問題提起、理論的な装置などを再整理し、集合的記憶の成果を整理したり、見通しのきいたものにしたりすることをめざした。

3. 研究の方法

本事業は、集合的記憶の学際的な研究を目指したために、その方法論はそれぞれの研究分担者がベースとしているディシプリンによっておのずから多様になることは避けられなかった。しかし、まさにこの多様性を、記憶の概念に即して橋渡しすることが課題であったために、つぎの諸点を分担者間で方法的に共有しつつ進めることに努めた。それは、客観的な歴史的事実に対して、記憶を主観的な現象として劣位に位置づける思考を自覚的に退けること、記憶をとくにコンフリクトの具体的な争点に即して考察するとともに、そこから共通の動態と論理を切り取ること、つまりメタレベルの視座を確保すること、記憶をテキストやイデオロギーとしてだけでなく、対象的な現象として、とくに形象として考察し、メモリーと記念碑やメモリー・アートをも考察の対象とする視点を重視すること(想起の文化)、また、記憶論を、記憶と忘却の相互作用のなかで立体的にとらえること、などである。具体的な過程としては、複数の個別

研究会を中心に協働作業を進め、さまざまなモノグラフをまとめた。ただ、それらの集約段階で、おりからの Covid19 のパンデミックによって制約されたことは大きな問題であった。それにも関わらず、Zoom Meeting を用いた代替的な試みを積み重ねることで、その困難に対処した。

4. 研究成果

記憶研究について、学際性を積極的かつ意識的な追求したことで、メモリースタディーズの全体像を視野に収めることでは、見通しが広がった。一連の共同作業のなかから浮かび上がってきた論点は最終的に一〇の視座に整理し、その枠組みをさらなる作業の中間地点として共有することができた。一〇の視座として整理したのは次の表のとおりである。

	視座	関連する代表的な問題と語彙
1	記憶の主題と争点	集合的記憶、ホロコースト、「慰安婦」論争、戦争記憶、全体主義、スターリン主義、「汚い戦争」、五月広場の母たち、歴史修正主義、植民地主義、Vichy syndrome、近代奴隷制、レイシズム、国民史的事件、『記憶の場』、空襲、引揚げ、移動と越境、災害とテロル、性暴力被害、性差別、冷戦期の動員、1968、犠牲者意識ナショナリズム、multidirectional memory
2	記憶の形象化	commemoration、monument/counter-monument、銅像撤去、サブカルチャー、記憶アート
3	記憶の技術・記憶のメディア	記憶術、記憶の方舟、「記憶の劇場」、図書館、「忘却術」、アーカイブ、記憶のテクノロジー、電腦記憶
4	記憶動態のモデル	不随意的記憶、再生・維持的記憶モデルvs産出・構築的記憶モデル、蓄積的記憶/機能的記憶、中動相モデル、現在主義、憑依学 = hauntology、多方向的記憶
5	記憶の真理性と叙述法	ミクロストリア、史学史とメタヒストリー、「虚偽の記憶」論争、喩法論、来歴論、物語(り)論、「忘却の穴」、fiction/faction、post-truth、post-memory
6	記憶の機能	Erinnerung、public memory/vernacular memory/private memory、自己確証機能/脱中心化機能、記憶の分有、「喪の仕事」、recollection/anamnesis、Eingedenken、判断力と構想力、
7	記憶の偏差と種差	national memory/global memory、場所の記憶、記憶の性差と反性差、当事者性、無文字社会の記憶、動物記憶
8	記憶と政治社会制度	歴史修正主義、想起の文化、「忘却の効用」論、真実和解委員会、移行期正義、謝罪と補償、国民的和解/和解拒否、時際主義批判、寛容論、和解学
9	記憶と忘却の心理	精神分析、トラウマ、PTSD、感情記憶、レジリエンス、エコーリアス、霊性研究、左翼メランコリー
10	記憶論の系譜学	神学、哲学、心理学、文学、美学、文芸、人類学、民俗学、国際法学、社会学などの各系譜、反記憶論

こうした視点ごとに多様な論考を産出したが、ナショナルメモリーとその動態の分析をさらに加えただけでなく、とくにメモリースタディーズとハザードスタディーズの横断という観点から、東日本大震災やパンデミックに関わる多様な記憶論に関してもいくつかの総括報告を提示できたことは、一定の成果であった。それは成田龍一の「悪疫年2020」などに典型的に示されており、あわせて断続的に震災後文学や原発震災の記憶についてのシンポジウムを実施することができた。

またグローバルメモリーとして表現される国際的なメモリースタディーズの進展を通じて、記憶論に関する被害の種類や言説のパターンが、越境的なリソースとして定着していく過程を明らかにすることもできた。それはグローバルメモリー、コロナルメモリー、およびメモリーレジームについての考察として結実している。これらの議論は、板垣竜太「日本の戦後処理と植民地支配責任」、米谷匡史「三・一独立運動、五・四運動と帝国日本のデモクラシー」、石井弓 The Transmission of Wartime Memories: Films, Stories, and Dreams in Rural Villages of Shanxi, China などの論考のなかに表れている。同時に板垣竜太の連続報告「台湾の人骨問題と日本 - 琉球 : 京都帝大解剖学講座の系譜」などによって、京大人骨事件という個別の事例についても、これをコロナルメモリーの解釈実践として展開できた。

さらに、これらとは別に、「犠牲者意識」が作り出してしまう負の現象をも掘り下げ、硬直した「ナショナリズム」として噴出する異なった犠牲者意識間の相克を概念的に可視化した。そして、最終段階で、そのような隘路の克服のために多元志向的記憶 multidirectional memory というアプローチにもたどり着いたことも重要な進捗である。この志向性については、引き続き共同作業として解明していくことになる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計50件（うち査読付論文 24件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 17件）

1. 著者名 成田龍一	4. 巻 913
2. 論文標題 いま、コロナウイルス禍の中で 社会史研究の成果に学ぶ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史地理教育	6. 最初と最後の頁 54-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 成田龍一	4. 巻 48-12
2. 論文標題 悪疫年2020 序	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 233-245
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 成田龍一	4. 巻 48-14
2. 論文標題 序・2 1980年代の試み	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 213-221
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 成田龍一	4. 巻 764
2. 論文標題 原爆・被爆を描く別役実、あるいは戦後表象空間のなかの別役実 『象』 『マクシミリアン博士の微笑』をめぐって	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 155-170
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 成田龍一	4. 巻 1159
2. 論文標題 桐野夏生の「1972年」 『抱く女』『夜の谷に行く』『夜また夜の深い夜』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 80-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shizue Osa	4. 巻 55
2. 論文標題 Where and who have been Nisei soldiers the war memory without gender?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際文化学研究	6. 最初と最後の頁 187-202
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24546/81012665	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 板垣竜太	4. 巻 134
2. 論文標題 琉球民族遺骨返還訴訟への意見書	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 評論・社会科学	6. 最初と最後の頁 141-177
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14988/00027622	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 板垣竜太	4. 巻 21
2. 論文標題 人類学京都学派と台湾：京都帝大解剖学第二講座の人骨研究の系譜	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 二十世紀研究 (京都大学)	6. 最初と最後の頁 79-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Rin Odawara	4. 巻 41-42
2. 論文標題 Anti-Nuclear Movement and 'Motherhood' in Post-War Japan: A Feminist Perspective	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 DEP: Deportate, esuli, profughe	6. 最初と最後の頁 54-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 長志珠絵	4. 巻 53
2. 論文標題 Where was gender roll for Air defense in Japan 1945?	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際文化学研究 (神戸大学国際文化学研究科)	6. 最初と最後の頁 71-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24546/81011958	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 長志珠絵	4. 巻 114
2. 論文標題 近代日本の人種・人種化論と「国際結婚」言説の変容	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人文学報 (京都大学人文科学研究所)	6. 最初と最後の頁 171-186
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 金井光太郎	4. 巻 34
2. 論文標題 世界市民フランクリンに見る対抗文化としてのコスモポリタニズム	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本 18世紀学会年報	6. 最初と最後の頁 28-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 成田龍一	4. 巻 828
2. 論文標題 『学習指導要領』「歴史総合」の歴史像をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 14-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 成田龍一	4. 巻 74-11
2. 論文標題 方法としての「書き直し」・序説	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 群像	6. 最初と最後の頁 84-148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 成田龍一	4. 巻 907
2. 論文標題 「この30年」をどのように見るのか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史地理教育	6. 最初と最後の頁 94-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板垣竜太	4. 巻 436
2. 論文標題 日本の戦後処理と植民地支配責任	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会運動	6. 最初と最後の頁 20-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板垣竜太	4. 巻 920
2. 論文標題 向き合うこと、顔をそむけること：三・一運動百周年と日本の植民地支配責任	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 204-209
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井昭夫	4. 巻 218
2. 論文標題 ベトナムの宗教政策 - 信教の自由と国際関係-	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 世界平和研究	6. 最初と最後の頁 58-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板垣竜太	4. 巻 63(1)
2. 論文標題 書評 高誠晩著『犠牲者のポリティクス：濟州4・3/沖縄/台湾2・28歴史清算をめぐる苦悩』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ソシオロジ	6. 最初と最後の頁 102-105
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 芹生尚子・小田原琳	4. 巻 21
2. 論文標題 小特集「統治の実践と植民地」解題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『クアドランテ』	6. 最初と最後の頁 139-144
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小田原琳	4. 巻 822
2. 論文標題 書評：ロジャース・ブルーベイカー著『グローバル化する世界と「帰属の政治」』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『歴史評論』	6. 最初と最後の頁 101-106
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 篠原 琢	4. 巻 No.976
2. 論文標題 「主権国家再考」（2018年度歴史学研究会大会 合同部会 ）へのコメント	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 pp.186-190
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 篠原 琢	4. 巻 41号
2. 論文標題 橋本伸也編著、『せめぎあう中東欧・ロシアの歴史認識問題』（ミネルヴァ書房）への書評	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東欧史研究	6. 最初と最後の頁 pp.87-98
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 土田環	4. 巻 2018
2. 論文標題 上映にかかわる用語	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 一般社団法人コミュニティシネマセンター編「映画上映年鑑2018」	6. 最初と最後の頁 86頁-93頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 成田龍一	4. 巻 第1号
2. 論文標題 歴史的に考えるということ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『高校生と考える希望のための教科書 桐光学園大学訪問授業』	6. 最初と最後の頁 240 - 252
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 成田龍一	4. 巻 第2号
2. 論文標題 「野火」の戦争社会学のために	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『戦争社会学研究』	6. 最初と最後の頁 43-58頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 成田龍一	4. 巻 第48号
2. 論文標題 出発点、あるいは原点への遡行 井上ひさしの「戦後」・覚書	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『社会文学』	6. 最初と最後の頁 17-30頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 成田龍一	4. 巻 第14号
2. 論文標題 戦争と性暴力をめぐること、二つ、三つ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『ジェンダー史学』	6. 最初と最後の頁 107 - 118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 成田龍一	4. 巻 第26集
2. 論文標題 半世紀後に読む「天皇の世紀」 大佛次郎の明治維新像	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『おさらぎ選書』	6. 最初と最後の頁 107 - 118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 成田龍一	4. 巻 717号
2. 論文標題 世界の視点から見る「戦後日本史」の考え方・学び方	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『社会科教育』	6. 最初と最後の頁 54 - 57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米谷匡史	4. 巻 891号
2. 論文標題 「三・一独立運動、五・四運動と帝国日本のデモクラシー」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『歴史地理教育』	6. 最初と最後の頁 28 - 33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井昭夫	4. 巻 95
2. 論文標題 東遊運動後のファン・ボイ・チャウにおけるアジア連帯論と仏越提携論	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東京外国語大学論集	6. 最初と最後の頁 251-270
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小田原琳	4. 巻 38
2. 論文標題 シルヴィア・フェデリーチー労働を人間の手に取り戻す	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 POSSE	6. 最初と最後の頁 186-197
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小田原琳	4. 巻 73-5
2. 論文標題 『キャリバンと魔女』の問いーマルクス主義フェミニズムを再考する	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 福音と世界	6. 最初と最後の頁 22-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 成田龍一	4. 巻 19
2. 論文標題 松本清張『昭和史発掘』の位相	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 松本清張研究	6. 最初と最後の頁 41-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 成田龍一	4. 巻 46-8
2. 論文標題 金哲『植民地の腹話術師たち』(平凡社、2017年)、あるいは植民地経験の考察について	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 UP	6. 最初と最後の頁 34-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 成田龍一	4. 巻 47-2
2. 論文標題 内田隆三『乱歩と正史』（講談社、2017年）、あるいは探偵小説というジャンルについて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 UP	6. 最初と最後の頁 30-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長志珠絵	4. 巻 15
2. 論文標題 「慰安所」・「慰安婦」言説の「戦後」を読む	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 女性・戦争・人権	6. 最初と最後の頁 13-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長志珠絵	4. 巻 創刊号
2. 論文標題 防空という視座・防空と空襲／空爆のあいだ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 戦争社会学研究	6. 最初と最後の頁 54-103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 土田環	4. 巻 1巻
2. 論文標題 夢見る窓－21世紀以降のマルコ・ペロッキオ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 イタリア映画祭2017	6. 最初と最後の頁 66-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井昭夫	4. 巻 851
2. 論文標題 南北統一後40年のベトナム	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 歴史地理教育	6. 最初と最後の頁 4-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井昭夫	4. 巻 257
2. 論文標題 ドイモイ期における戦後処理と戦争の記憶	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アジア研 ワールド・トレンド	6. 最初と最後の頁 8-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長志珠絵	4. 巻 21-5
2. 論文標題 『慰安婦』問題を一般教養講義で語る/組み込むために (特集 歴史教育の明日を探る : 「授業・教科書・入試」改革に向けて)	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 学術の動向	6. 最初と最後の頁 37-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石井弓	4. 巻 37
2. 論文標題 The Transmission of Wartime Memories: Films, Stories, and Dreams in Rural Villages of Shanxi, China,	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Oral History Forum d'histoire orale	6. 最初と最後の頁 1-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石井弓	4. 巻 37
2. 論文標題 記憶と歴史の交錯 日中戦争のある「惨案」の事例から	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 現代中国研究	6. 最初と最後の頁 35-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Rin Odawara	4. 巻 19
2. 論文標題 Violence against women and the racist discourse during the WWI in Italy'	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 in Quadrante	6. 最初と最後の頁 9-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小田原琳	4. 巻 12
2. 論文標題 「平和の犯罪」としての戦時・植民地主義ジェンダー暴力 - イタリア歴史学における研究動向 -	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 ジェンダー史学	6. 最初と最後の頁 81-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小田原琳	4. 巻 51
2. 論文標題 経験の後に書かれる歴史へ - イタリア歴史学におけるレジスタンス神話と修正主義	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本の科学者	6. 最初と最後の頁 30-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金井光太郎	4. 巻 19
2. 論文標題 国民国家アメリカの創造とプリマスの記憶の神話化	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 クアドランテ	6. 最初と最後の頁 103-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 成田龍一	4. 巻 954
2. 論文標題 批判と反省 認識論の歴史学へ：安丸良夫の歴史学	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 27-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計52件 (うち招待講演 15件 / うち国際学会 16件)

1. 発表者名 金井光太郎
2. 発表標題 アメリカ独立再考：ポピュリズム的運動の系譜と連邦主権
3. 学会等名 第4回北米ポピュリズム史研究会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 金井光太郎
2. 発表標題 ポストトランプと左派ポピュリズムの可能性 新生民主党を担うオカシオ・コルテス議員
3. 学会等名 国際関係研究所研究会「『ポストトランプ』時代のアメリカ」 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長志珠絵
2. 発表標題 女系・女帝の可能性と<近代>
3. 学会等名 歴史学研究会 シンポジウム「皇位継承再論 女帝・女系の可能性と皇太子」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 長志珠絵
2. 発表標題 <感染症の時代>をジェンダー射程で「読む」
3. 学会等名 日本大学史学会 シンポジウム<歴史教育の未来を拓く : コロナ下の「新常態」とアクティブラーニング>(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Rin Odawara
2. 発表標題 A complicated relationship between the eugenics and the reproductive rights in Post-War Japan
3. 学会等名 Reproductive (Non) Freedom (Ca' Foscari University of Venice, Italy) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小田原琳
2. 発表標題 無垢の死者を想起することの困難：フォッセ・アルデアティーネの虐殺と戦後イタリアのナショナル・アイデンティティ
3. 学会等名 東アジアのメモリー・レジーム：再現と遂行(西江大学、韓国)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Rin Odawara
2. 発表標題 Motherhood and the Anti-nuclear Movement in Post-War Japan
3. 学会等名 Gender and Criticism: Japan in the Trans-Pacific (California State University, Northridge, the United States) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yumi Ishii
2. 発表標題 Orphan of Zhao: A Story and the Dynamism of Village Community in Shanxi China
3. 学会等名 European Association for Chinese Studies (EACS) (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 板垣竜太
2. 発表標題 収集と権力：京都帝大人類学研究室の「南島」調査
3. 学会等名 人骨問題を考える連続学習会@京都大学 第2回
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 板垣竜太
2. 発表標題 台湾の人骨問題と日本 - 琉球 : 京都帝大解剖学講座の系譜 (あるいは博士の異常な愛情)
3. 学会等名 人骨問題を考える連続学習会@京都大学 第6回
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 板垣 竜太
2. 発表標題 1930年代の京都帝国大学人類学研究室の奄美調査を歴史化する
3. 学会等名 奄美における大学の 調査・収集・研究 を考える：1930年代の「人類学」をとば口に(奄美郷土研究会，於・奄美大島教育会館)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Rin ODAWARA
2. 発表標題 Forgotten women in the memory and history: from the cases during the WWI in Italy
3. 学会等名 「帝国とネイションを語る：中央ヨーロッパと日本における政治・宗教・文化比較」(Central European University) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Rin ODAWARA
2. 発表標題 Un/learning her rights: the issue of reproduction in the 68 and after in Japan
3. 学会等名 Words and Violence: Global History of the 1968 Protests in Japan and its Contemporary Meaning (Leiden University) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Rin ODAWARA
2. 発表標題 Anti-nuclear Movements and the Concept of 'Motherhood' in Post-War Japan: A Feminist Perspective
3. 学会等名 Donne Disarmanti / Disarming Women (University of Venice Ca'Foscari) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 土田 環
2. 発表標題 日本映画における「自主映画」の概念の変遷と再定義の必要性
3. 学会等名 文化経済学会 <日本> 2018年度京都大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 土田環 ほか
2. 発表標題 パネルディスカッション「若年層の観客を開拓する-大学生・高校生と映画館」
3. 学会等名 全国コミュニティシネマ会議
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 土田環 ほか
2. 発表標題 パネルディスカッション「学校における映画教育の役割とは」
3. 学会等名 フォーラム「こどもが映画と出会うとき2019」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yumi Ishii
2. 発表標題 Multilayered memory of Sino-Japanese war, University of Oxford, UK (中国語、英語)
3. 学会等名 International conference of Memories of World War : China and Europe (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yumi Ishii
2. 発表標題 Memory of the Sino-Japanese war: Society others and self -identity in oral history ,the University of Oxford, UK (中国語)
3. 学会等名 Mandarin Forum (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 成田龍一
2. 発表標題 「井上ひさしのPLAY」
3. 学会等名 TPワークショップ
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 成田龍一
2. 発表標題 「音声の「近代」をめぐる二、三のこと」
3. 学会等名 神奈川大学常民文化研究所 (2018年度第一回歴史民俗資料科学研究科公開講座)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 成田龍一
2. 発表標題 「『言葉と戦車』をめぐって 加藤周一の1968年」
3. 学会等名 Words and Violence: Global History of the 1968 Protests in Japan and its Contemporary Meaning
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岩崎稔
2. 発表標題 1968 and Left Wing Melancholy
3. 学会等名 Words and Violence: Global History of the 1968 Protests in Japan and its Contemporary Meaning
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岩崎稔
2. 発表標題 Hegel and the Play of Both Powers
3. 学会等名 Transpacific Workshop 2018, Focus: Play
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岩崎稔
2. 発表標題 記憶論的転回とユートピアの枯渇、あるいは左翼メランコリー
3. 学会等名 西江大学・早稲田大学共同シンポジウム「グローバルな記憶空間としての東アジアver.2」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岩崎稔
2. 発表標題 Global Protest "1968" in Japan
3. 学会等名 France/Japan/Global Workshop
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小田原琳
2. 発表標題 Rights of Women vs. Rights of Disabled People: Eugenics in Japan after 1968
3. 学会等名 European Association for Japanese Studies 2017, ノーヴァ・デ・リスボン大学 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小田原琳
2. 発表標題 生への権利と生殖への権利ー現代日本におけるフェミニズムと優生思想
3. 学会等名 グローバルな記憶空間としての東アジア (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小田原琳
2. 発表標題 Comment on Carmen Belmonte, Fictive Realities: The Practice of Human Display in Italian National Exhibitions'
3. 学会等名 先住民をめぐる言説・表象・プラクティス
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小田原琳、久米順子
2. 発表標題 Feminismo o eugenesia? Debates en torno al aborto en el Japon de postguerra
3. 学会等名 Congreso internacional en historia de las mujeres y estudios de genero
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 成田龍一
2. 発表標題 『野火』の戦争社会学
3. 学会等名 戦争社会学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 成田龍一
2. 発表標題 傷は癒えたか
3. 学会等名 4th Trans-pacific Workshop, カルフォルニア大学(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 成田龍一
2. 発表標題 21世紀に、大江健三郎「政治少年死す」を読む
3. 学会等名 European Association for Japanese Studies 2017, ノーヴァ・デ・リスボン大学(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 成田龍一
2. 発表標題 日本の日本、アメリカの日本
3. 学会等名 Order and Disorder: Critical Reflections on Japanese Studies, a conference honoring J. Victor Koschmann, コーネル大学(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 成田龍一
2. 発表標題 出発点、あるいは原点への遡行ー井上ひさしの「戦後」
3. 学会等名 日本社会文学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 成田龍一
2. 発表標題 戦後的思考 / 戦後後的思考のその先へ
3. 学会等名 文教大学
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 成田龍一
2. 発表標題 戦争・紛争と性暴力
3. 学会等名 シンポジウム、ジェンダー史が拓く歴史教育、奈良女子大学
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 成田龍一
2. 発表標題 近代のなかの「戦後」 / 「戦後」のなかの明治
3. 学会等名 国際シンポジウム、戦後日本文化再考、国際日本文化研究センター（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 長志珠絵
2. 発表標題 ジェンダー史研究の可能性 「銃後と前線」という語り
3. 学会等名 アジアのなかの日本文化セミナー【第15回】、名古屋大学（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 土田環
2. 発表標題 公設民営方式による映画館運営の課題－富山市フォルツァ総曲輪の事例
3. 学会等名 文化経済学会2017研究大会、大分芸術短期大学
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 板垣竜太
2. 発表標題 Divided Family and Shared Memories: Entangled Life History of a North Korean Linguist Kim Su-gyong and His Family
3. 学会等名 Transnational Cultures: Colonialism and the Cold War in Japan and Korea, The 3rd TUDOKU Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岩崎稔
2. 発表標題 夭折する青春の自画像
3. 学会等名 European Association of Japanese Studies 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岩崎稔
2. 発表標題 “Vicissitudes of Japan's Reception of Hegel and the Shock of Hegel and Haiti”
3. 学会等名 Order and Disorder: Critical Reflections on Japanese Studies (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 長志珠絵
2. 発表標題 「空襲」イメージか はらむ記憶の国境線 帝国の防空とその記録・記憶
3. 学会等名 戦争社会学会第七回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 長志珠絵
2. 発表標題 戦争認識への問いを<試す><開く>ということー空襲・空爆・防空のあいだー
3. 学会等名 立命館史学会大会(招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 石井弓
2. 発表標題 オーラルヒストリーによって記憶を考える
3. 学会等名 学問を考える会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 石井弓
2. 発表標題 中国における社会主義時代の集団化と戦争記憶
3. 学会等名 戦争と社会主義のメモリースケープ研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Rin Odawara
2. 発表標題 How Global was European Colonialism?
3. 学会等名 「ヨーロッパ史における中心・周縁再考」(東京外国語大学)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小田原琳
2. 発表標題 シルヴィア・フェデリーチ『キャリバンと魔女』を読む
3. 学会等名 ワークショップ「魔女とナウトピア - 脱資本主義のパラレルワールド」(東京外国語大学)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Rin Odawara
2. 発表標題 La divisione del lavoro di genere e la nuova strategia dei lavoratori stranieri in Giappone
3. 学会等名 City of Como and the University of Insubria, "Generi a colori: proposte formative per comunita multiculturali", Como (Italy)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 米谷匡史
2. 発表標題 日中戦争期・朝鮮知識人の「世界史の哲学」
3. 学会等名 国際研究集会「植民地知識人の「近代の超克」論」 ソウル大学・人文学研究院
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 成田龍一
2. 発表標題 「クローン」のポリティックス カズオ・イシグロ『わたしを離さないで』(Never Let Me Go)をめぐって
3. 学会等名 TPW(環太平洋ワークショップ)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計33件

1. 著者名 小田原琳	4. 発行年 2020年
2. 出版社 績文堂	5. 総ページ数 171
3. 書名 パンデミックとジェンダー分業 - 共同体の公正な存続のために：歴史学研究会編『コロナの時代の歴史学』	

1. 著者名 小田原琳	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 246
3. 書名 (共訳) パーバラ・H. ローゼンワイン/ リッカルド・クリスティアーニ『感情史とは何か』	

1. 著者名 小田原琳	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 294
3. 書名 (翻訳) ゼバスティアン・コンラート『グローバル・ヒストリー 批判的歴史叙述のために』	

1. 著者名 成田龍一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 428
3. 書名 方法としての史学史	

1. 著者名 板垣竜太	4. 発行年 2020年
2. 出版社 耕文社	5. 総ページ数 249
3. 書名 「京都帝大の人類学者の植民地主義的ダブルスタンダード」松島泰勝・山内小夜子編著『京大よ、還せ：琉球人遺骨は訴える』	

1. 著者名 篠原琢	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 340
3. 書名 「帝国」(文旦執筆)『論点・西洋史学』	

1. 著者名 長志珠絵	4. 発行年 2019年
2. 出版社 文理閣	5. 総ページ数 374
3. 書名 「史料蒐集と植民地」 - 『朝鮮史』史料探訪『復命書』を中心に」桂島宣弘編著『東アジア・遭遇する知と日本 トランスナショナルな思想史の試み』	

1. 著者名 土田環(編)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 山形国際ドキュメンタリー映画祭東京事務局	5. 総ページ数 164
3. 書名 特集カタログ「Double Shadows 2 映画と生の交わる場所」	

1. 著者名 石井弓	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉成出版	5. 総ページ数 512
3. 書名 「戦争記憶をめぐる再帰的な自己実践ーオーラルヒストリーによる他者理解と自己理解」菅豊、北條勝貴編著『パブリック・ヒストリー入門』	

1. 著者名 成田龍一	4. 発行年 2019年
2. 出版社 三人社	5. 総ページ数 603
3. 書名 「近代のなかの「戦後」 / 「戦後」のなかの明治」坪井秀人編『戦後日本文化再考』	

1. 著者名 竹沢泰子・田辺明生・成田龍一	4. 発行年 2020年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 423
3. 書名 『環太平洋地域の移動と人種』	

1. 著者名 今井昭夫	4. 発行年 2019年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 83
3. 書名 ファン・ボイ・チャウ	

1. 著者名 金富子・板垣竜太責任編集	4. 発行年 2018年
2. 出版社 御茶の水書房	5. 総ページ数 222
3. 書名 [増補版] Q&A朝鮮人「慰安婦」と植民地支配責任：あなたの疑問に答えます	

1. 著者名 土田 環 編訳	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ソリレス書店	5. 総ページ数 183
3. 書名 歩く、見る、待つ ペドロ・コスタ映画論講	

1. 著者名 成田龍一	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ハーベスト社	5. 総ページ数 196
3. 書名 『太平洋食堂』解説（「初期社会主義者たちの群像、あるいは歴史劇の可能性について」）	

1. 著者名 成田龍一	4. 発行年 2019年
2. 出版社 集英社	5. 総ページ数 494
3. 書名 『近現代日本史との対話 【幕末・維新 戦前編】』	

1. 著者名 成田龍一	4. 発行年 2019年
2. 出版社 集英社	5. 総ページ数 558
3. 書名 『近現代日本史との対話 【戦中・戦後 現在編】』	

1. 著者名 長志珠絵	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 268
3. 書名 『創られた明治、創られる明治』	

1. 著者名 岩崎稔	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 310
3. 書名 アジアの戦争と記憶	

1. 著者名 ヘイドン・ホワイト、岩崎稔監訳	4. 発行年 2017年
2. 出版社 作品社	5. 総ページ数 703
3. 書名 メタヒストリー（小田原琳担当：575-648）	

1. 著者名 高橋進・村上義和編著	4. 発行年 2017年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 366
3. 書名 イタリアの歴史を知るための50章（小田原琳担当：193-198,211-212,286-288,296-298）	

1. 著者名 上野千鶴子・蘭信三・平井和子編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 384
3. 書名 戦争と性暴力の比較史へ向けて（成田龍一「性暴力と日本近代歴史学－「出会い」と「出会いそこね」」）：257-281	

1. 著者名 安藤紘平・岡室美奈子・是枝裕和・谷昌親・土田環・長谷正人・元村直樹編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 フィルムアート社	5. 総ページ数 472
3. 書名 映画の言葉を聞く（土田環担当：69-82,97-112,127-140,173-186,225-240,289-302,303-318,319-332,347-362）	

1. 著者名 岡本有佳編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 お茶の水書房	5. 総ページ数 276
3. 書名 誰が 表現の自由 を殺すのか：ニコンサロン「慰安婦」写真展中止事件裁判の記録（板垣竜太「レイシズムの＜反日＞攻撃のなかで表現の場をつくりだすこと」：74-82）	

1. 著者名 洪宋郁編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ソウル大学出版文化院	5. 総ページ数 668
3. 書名 植民地知識人の近代超克論（米谷匡史担当「序文」5-12、「解題：中日戦争期・朝鮮知識人の「世界史の哲学」」：433-458）	

1. 著者名 第17回日韓・韓日歴史家会議報告書	4. 発行年 2018年
2. 出版社 日韓文化交流基金発行	5. 総ページ数 240
3. 書名 東アジアの平和思想とその実践－歴史的考察（米谷匡史担当「第2セッション 裴京漢報告に対する討論」：153-156、「第4セッション 総合討論」：213-239）	

1. 著者名 岩崎稔	4. 発行年 2017年
2. 出版社 作品社	5. 総ページ数 703
3. 書名 「メタヒストリーとはどのような問いか」『メタヒストリー - 十九世紀ヨーロッパの歴史的想像力』	

1. 著者名 岩崎稔	4. 発行年 2017年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 296
3. 書名 「解題」『ヘーゲルとハイチ』（スーザン・バックモース著、岩崎稔訳）	

1. 著者名 AZAK (在日コリアン弁護士協会) 編	4. 発行年 2016年
2. 出版社 影書房	5. 総ページ数 203
3. 書名 ヘイトスピーチはどこまで規制できるか (板垣竜太「基調報告 日本のレイシズムとヘイトスピーチ」：9-49)	

1. 著者名 東京歴史科学研究会編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 323
3. 書名 歴史を学ぶ人々のために - 現在をどう生きるか (小田原琳担当「境界を創りだす力 - 南イタリアから立てる近代への問い」：203-221)	

1. 著者名 シルヴィア・フェデリーチ	4. 発行年 2017年
2. 出版社 以文社	5. 総ページ数 517
3. 書名 キャリバンと魔女 (小田原琳・後藤あゆみ訳)	

1. 著者名 遠藤泰生編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 364
3. 書名 近代アメリカの公共圏と市民：デモクラシーの政治文化史 (金井光太郎「アメリカ共和政の試練?人民の同意と主権者人民」：59-88)	

1. 著者名 宇野田尚哉・川口隆行・坂口博・鳥羽耕史・中谷いずみ・道場親信編	4. 発行年 2016年
2. 出版社 影書房	5. 総ページ数 366
3. 書名 「サークルの時代」を読む 戦後文化運動研究への招待 (米谷匡史「療養所の詩サークルと工作者たち 大谷浩之と谷川雁」：211-216)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>2 nd Trans-Pacific Workshop https://www.international.ucla.edu/japan/event/11329 TP Workshop: The Politics of Life and Death https://www.international.ucla.edu/japan/event/12007</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	今井 昭夫 (IMAI AKIO) (20203284)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授 (12603)	
研究分担者	篠原 琢 (SHINOHARA TAKU) (20251564)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授 (12603)	
研究分担者	長 志珠絵 (OSA SHIZUE) (30271399)	神戸大学・国際文化学研究所・教授 (14501)	
研究分担者	金井 光太郎 (KANAI KOHTARO) (40143523)	東京外国語大学・その他部局等・名誉教授 (12603)	
研究分担者	石井 弓 (ISHII YUMI) (50466819)	東京大学・大学院情報学環・学際情報学府・特別研究員 (12601)	
研究分担者	成田 龍一 (NARITA RYUICHI) (60189214)	日本女子大学・人間社会学部・研究員 (32670)	
研究分担者	板垣 竜太 (RYUTA ITAGAKI) (60361549)	同志社大学・社会学部・教授 (34310)	
研究分担者	小田原 琳 (RIN ODAWARA) (70466910)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授 (12603)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	土田 環 (TAMAKI TSUCHIDA) (70573658)	早稲田大学・理工学術院・講師（任期待） (32689)	
研究分担者	米谷 匡史 (YONETANI MASAFUMI) (80251312)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授 (12603)	
研究分担者	藤井 豪 (FUJII TAKESHI) (70886217)	東京外国語大学・世界言語社会教育センター・講師 (12603)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 『メタヒストリー』の射程で考える歴史叙述と記憶の問題系	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 East Asia as Global Memory Space	開催年 2017年～2017年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関